

甲陽軍鑑

武田家の行く末を危惧した高坂弾正が甥の春日惣次郎と家臣であり能芸役者でもあった大蔵彦十郎に口述書き継ぎを命じ作成に着手した(天正 3 年 1575)。弾正死後は甥の春日惣次郎が書き続け原本を作成し、その後、江戸時代の兵学者小幡勘兵衛景憲が現在のかたちに補訂・編纂し、講説につとめた(本編 20 巻全 59 品、末書 2 巻)。

(川端紅葉著 2026・2・22)



「甲陽軍鑑」(歴史博物館 信玄公宝物館蔵)